

令和3年度実施

市民協働「熊谷の力」事業  
「はじめの一步助成金」事業

# 合同成果報告会



熊谷市市民活動推進課

## 次 第

日 時：令和4年7月7日（木）  
午後1時30分から  
会 場：大里コミュニティセンター  
東棟ホール

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 報告発表 13:35～15:50（予定）

### 市民協働「熊谷の力」事業

報告 発表順	区分	事業名	報告者		発表 予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市提案	空き家問題解決支援事業	熊谷相続研究会	安心安全課	13:35～ 13:50

### 「はじめの一步助成金」事業

報告 発表順	区分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
②	チャレンジ助成金	スマホでも始められる初めての映像編集	シネ・ビデオサークル熊谷	13:50～ 14:05
③		不適應児童・生徒に対する教育支援、 オンラインを用いた若者支援事業	特定非営利活動法人 若者支援ひろば三愛	14:05～ 14:20
④		ヘルスアップ講座「これから始めるウォーク&ジョグ」	NPO 法人 ベアリスランニングクラブ	14:20～ 14:35

休憩（5分）

⑤	助成金 チャレンジ	熊谷街なかウォーキングマップ作成	熊谷健康づくりウォーキングクラブ	14:40～ 14:55
⑥		講演会とワークショップ (新しい女性の生き方)	I T C - J 彩玉クラブ	14:55～ 15:10
⑦	スタート助成金	子どもの未来を想う一つのアクションプロジェクト	木と瑠璃の会	15:10～ 15:25
⑧		活かして！楽しく!!熊谷の竹 力 事業	竹の力！活かし隊	15:25～ 15:40

- 4 講 評
- 5 閉 会

事業名	市民協働「熊谷の力」空き家問題解決支援事業	
実施団体等	実施団体：熊谷相続研究会	所管課：安心安全課

1 事業目的	各地域に存在する「空き家の問題」について、専門知識を持っている士業者により、地域内の問題解決の助言や、空き家の所有者に対し改善や助言等をワンストップで行うことにより、空き家問題の改善に寄与することを目的にする。																													
2 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の社会問題である「空き家問題」について、各地域に赴き専門家の立場から対策等を伝えるセミナーや個別相談会を開催し、空き家の所有者への啓発や、問題のある空き家を抱える地域住民を支援する。</li> <li>・空き家を所有している者からの相談をワンストップで受け、利活用、売買、相続、解体等の専門業者（各士業）がワンチームとなり、所有者を支援する。</li> <li>・相談を受けるチームメンバー（司法書士、税理士、行政書士、建築士、土地家屋調査士、宅建士等）を可視化することにより、所有者等が安心して相談できる体制を構築する。公認不動産コンサルティングマスター（不動産、経済、金融、法律、建築、税制の知見を有する不動産のプロ）が担当者となり、相談者の意向を伺った上で、全体を見通し、適宜、専門士へ分業し、進捗状況を見守り、相談終了までを見届けることで、相談者が右往左往することなくスムーズな支援をワンストップ・ワンチームで行う。</li> </ul>																													
3 事業期間	令和3年4月1日から令和4年3月3日																													
4 事業区分	市提案事業																													
5 事業形態	委託事業																													
6 事業費	総事業費：1,070,000円(A+B+C)	事業収入：0円(A)																												
	実施団体の負担額：0円(B)	市の負担額：1,070,000円(C)																												
7 事業成果と波及効果	<p>●空き家相談者への具体的な成果</p> <p>○所有者からの相談対応</p> <p>安心安全課から事業に関する案内を受けた空き家所有者 11名から相談があり、自宅訪問、電話連絡、資料収集、現地視察等にて相談内容の聞き取り調査から始まり3ヶ月を超える事例まで、相続・解体・売却相談等の対応を行った。</p> <p>○セミナー及び相談会の開催</p> <p>空き家の所有者向けの相談会及び個別相談会を市内5カ所で実施し、延べ65組90名の予約があった。一部、キャンセルがあったものの、53組77名の参加があった。</p> <p>なお、不参加者の内、希望される方には資料郵送及び担当者による電話相談によるフォローを行った。</p> <p>セミナー予約終了後も3件の相談申込みがあり、希望する方には電話相談及び資料送付により対応した。</p> <p>【相談者から寄せられた相談内容の内訳（重複あり）】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内容</th> <th>件数</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>売却</td> <td>21</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>将来どうなるか</td> <td>13</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>相続</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>解体</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>管理、賃貸</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>その他</td> <td>10</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>			内容	件数	割合(%)	1	売却	21	27	2	将来どうなるか	13	17	3	相続	12	15	4	解体	10	13	5	管理、賃貸	10	13	6	その他	10	15
	内容	件数	割合(%)																											
1	売却	21	27																											
2	将来どうなるか	13	17																											
3	相続	12	15																											
4	解体	10	13																											
5	管理、賃貸	10	13																											
6	その他	10	15																											

	<p>●<b>達成度</b>  事業計画通り市内 5 カ所でセミナー&amp;個別相談会を開催することができた。予約者への事前連絡、各会場設営、席順表、専門士シフト、相談時間割などきめ細かいスケジュールを計画したことにより、相談者が待ち時間にストレスを感じないような配慮し、順調な運営することができた。  アンケートでは、相談者の 98%が今後の継続した支援に期待するとの回答があった。  様々な問題が絡み合う不動産に関する相談は、早期に解決するものではないが、少なくとも問題の発見、課題の設定まではできたと考える。</p> <p>●<b>波及効果</b>  相談会で担当者との相談が進展する過程で、相談目的のみならず他の専門士へ内容が発展するケースが多く見られた。相談者を受ける側においても、空き家の相続登記～解体～売却～税務申告への一連のフローに沿った手続きの理解度を深める機会となった。</p>
<p>8 協働の効果</p>	<p>●<b>実施団体から見た協働の効果</b>  「熊谷市」という高い公的信用度が随所に見られました。  ①熊谷市の行事だから信頼に値するという認識で参加されたものと考えます。  ②行政が行なう事業であるという意識があるので、当日ノーショウ（無断参加）は1組のみでありました。  ③市報同時配布という告知方法による効果は大きかったと思います。  ④チラシ作成過程での市担当者様より細部にわたってアドバイスをいただいたことで、内容・仕上がりとともに良いものができ、当会の訴求すべき内容が十分表現できた結果、空き家所有者に対するセミナー応募動機に大きく寄与したと考えています。  ⑤市の担当者様より相談概要のヒアリングを含めた予約状況を適宜いただくことができ、当会会員間の情報共有がこまめに可能となったので、遺漏のない段取りができたと思います。  ⑥安心安全課様と当会の役割分担が効率的な事業運営に役立ったと思うが、双方のコミュニケーションによるところが大きいと感じました。  ⑦4カ所の公民館及び商工会館の会場図面、各種設備などの事前調査にご協力いただき、会員、相談者の動線に配慮が行き届くなど、会場レイアウト、席順表作成に大変役立ちました。  ⑧セミナー予約開始前に 11 件、予約締切後 3 件の相談がありました。また、セミナーを欠席し資料請求された方には「相談窓口」として期待を寄せていただいております。今後、「空き家になったらどうすべきか？」という心配を持つ方々に対応するための「相談窓口」の必要性を強く感じました。</p> <hr/> <p>●<b>所管課から見た協働の効果</b>  空き家の処分や活用を実際に行う場合は、個人で対処することは難しく、専門家の関与が不可欠である。また、空き家には様々な問題が付随しているため、複数の専門家の関与が必要となるが、各専門家が連携した相談体制を構築することで、多種多様な悩みを抱える空き家所有者にワンストップで対応できる場を提供することができた。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●<b>今回の協働事業により実感したこと（今後の展開と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家所有者は、相続に絡む権利問題・エリアが抱えるハザード問題・物理的な道路狭隘問題など、個人では越えがたいハードルの手前でフリーズ状態になっています。税負担や管理責任を負いながら具体策がなく先送りしているといってもいいでしょう。そこに信頼のおける具体策を持って手を差し伸べることが求められています。</li> <li>・旧市街地中心部（本町・本石・桜町など）の空家率は、他の地域より高く、その一因として道路狭隘が考えられます。これは個別の空き家対応では解決できない問題です。エリアとして抱える接道問題を解決することによって、荒川・利根川のハザードエリアからの居住を誘導する地域としても期待できるようになり、両者の課題が解決する可能性が大きいのではないかと考えています。旧市街地に多くみられるスポンジ街区を一体的に再生するという小規模ではあるが実現可能なスキームを構築し、行政を含む関係機関との協調によって「住みたい街」に変身させることが可能な取り組みべき課題があるように思います。</li> <li>・他県等遠方に居住する空き家所有者には高齢者も多く、管理もできず処分の方法もわからない状態で、長年にわたり所有者責任と税負担の重圧に為すすべもなく悩みを抱えたままの状態、すがる思いで相談される方々の相談に応じてきました。高齢者にわかりやすい表現方法で、将来をみせること、今後どうすべきかの指針を示してあげることが求められています。しかも、担当者が責任を持って、すべての工程を見通し・見守り・見届けるという他にない体制が、「実効性のある空き家対策」には必須条件であると確信しました。</li> </ul>

●所管課から見た今後の展開と課題

所有者による需要の高さが伺えたことから、今後も所有者が空き家に関する悩みを気軽に相談できる体制を整備するため、専門家により組織される民間団体と連携した空き家対策を推進していく。

(別紙様式1)

団体名	シネ・ビデオサークル熊谷
-----	--------------

事業実績報告書 (令和3年度)

1 助成金名	「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	スマホでも始められる初めての映像編集	
3 交付決定助成金額	100,000円	
4 助成事業に要した経費の額	141,444円	
5 助成金要望額	100,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	4回実施して延べ55名(1回受講者38名、2回受講者7名、3回受講者1名、実質46名)の参加がありました。スマホの撮影・編集とパソコン編集だけでなく、ビデオ編集に関する総合的な学習を行い、知識を広げる事に役立ちました。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	参加者の全員がスマホでのビデオ撮影方法に納得し、スマホ編集にチャレンジしました。多くの方がパソコン編集を実習・体験しました。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	スマホ撮影・編集の知識が広がり、パソコン編集もできて、喜んでいました。市民のデジタル技能の向上に役立ちました。
7 成果の自己評価	市民にスマホ撮影・編集及びパソコン編集を啓発できました。多くの方が今後も編集する姿勢でした。残念ながら当クラブへの入会希望者は未だ現れていませんが、今後も地道に啓発活動を続けます。	

(別紙様式1)

団体名	特別非営利活動法人若者支援ひろば三愛
-----	--------------------

事業実績報告書 (2021 年度)

1 助成金名	「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	不適應児童・生徒に対する教育支援、オンラインを用いた若者支援事業	
3 交付決定助成金額	300,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	611,882 円	
5 助成金要望額	300,000 円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	学校で不適應を起こしている高 IQ 児童が 11 名新たに来所し、知的好奇心の向上を図ることができた。 引きこもりであった生徒に対して、オンライン通信ゲームを活用し、社会との繋がりを構築することができた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	不適應児童の知的好奇心を高めることができ、若者の社会との繋がりを作ることができた。活動の継続により、中長期的な成果をもたらしたい。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	小学校で不適應を起こしている児童が、大学生スタッフや大人との関りを通じて、自らの興味関心を広げ、プログラミングなど自発的に取り組むようになった。引きこもりの生徒に対し、オンライン通信ゲームが継続来所のきっかけを作り高校受験に向けた学習を行うことができるようになった。
7 成果の自己評価	成果目標をおおむね達成できた。不適應児童の知的好奇心を活かすことができた。一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、小中学校での感染拡大の影響を受け、参加辞退や、人数制限を講じる必要が生じた点が残念であった。	

(別紙様式1)

団体名	NPO 法人ベアリスランニングクラブ
-----	--------------------

事業実績報告書 (令和3年度)

1 助成金名	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	ヘルスアップ講座 「これから始めるウォーク&ジョグ」
3 交付決定助成金額	52,000 円
4 助成事業に要した経費の額	76,056 円
5 助成金要望額	52,000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 申込者数45名、特にウォーキングの部に38名の申し込みがあった。このことから、健康づくりに焦点を当てた入門者・初心者を対象とする事業の目的がほぼ達成できたといえる。また、講座受講後参加者が継続して健康づくりに取り組んでくれるという観点でも達成度は高かった。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 参加者からは ○大変勉強になった2日間だった。心拍数など気にしたことがなかったが、自分にとって最適な速度を求めののに心拍数も重要だということを知り改めて教えてもらった。今回の自分のデータをもとにこれからも効果的なウォーキングに取り組んでいきたい。参加して大変良かった。 ○今後もこのような講座を開いてほしい。 などの感想があった。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 事業終了時の参加者対象のアンケート結果 ○講座は今後の活動に参考になったか？ 大変参考になった78% 参考になった22% 参考にならない0% ○また参加したいか？ 参加したい92% 参加しない0% 時期場所によって8% ○意見感想 大変楽しく参加できた。自分の体力低下を痛感させられ、これを機に少しずつ、毎日体を動かす習慣をつけていきたい。

7 成果の自己評価	当初想定したよりも多くの参加者があり、健康づくりに対するニーズの大きさを感じるとともに指導者の人数に限りがあったが、参加した会員が指導補助として積極的に活動することができた。「スタッフが全員とても親切で行き届いていた。とても熱心で感動。」「同年代の方が参加していて、皆さん関心があるのだなと思った。継続は力なりと思った。」など参加者からの声もあり、参加者・主催者ともに満足できる事業になった。講座受講後も継続していきたいという声も多くあった。
-----------	---

(別紙様式1)

団体名	熊谷健康づくりウォーキングクラブ
-----	------------------

事業実績報告書 (令和3年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	熊谷街なかウォーキングマップ作成
3 交付決定助成金額	225,000 円
4 助成事業に要した経費の額	300,000 円
5 助成金要望額	225,000 円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 ①熊谷市内のウォーキング人口は増えているものの、コロナ禍で家に閉じ籠りが増えている。運動を促進するため、ウォーキングは最適であるが、目的・目標を認識することが必須である。そこで、市内の最適なウォーキングマップを作成し、21ヶ所のコースを決定した。事業内容、目的共地域社会に貢献できた。 ②市民の参加しやすいよう、市内の全域を視野に入れたマップの作成を行うことができた。 ③実行性のあるマップを作成することができた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 「歩いて、歩いてもっと好きになろうよ熊谷を」のキャッチフレーズに呼応してくれる市民からの連絡が多数あり、市民自らのウォーキングコースの再設定やしばらく辞めていたウォーキングを再開するなどの行動変容が現れた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 ①1000部の冊子の配布を開始したところ、一週間で80%が無くなった。また、市民のウォーキングへの関心の高さを実感した。

		②市内の各所のことを知らない人がそれを再認識し、熊谷が魅力のあることを理解し、自分で歩いて実感しようとする人が多数現れた。
7	成果の自己評価	冊子制作にあたり、立正大学の若い力と協同で行えたことが1番の成果であった。したがって、冊子の評価は自己評価で満点に近いと思われる。

(別紙様式1)

団体名	ITC-J 彩玉クラブ
-----	-------------

事業実績報告書 ( 3 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 ○「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	講演会と7-7ショウ70 [新しい女性の生き方]	
3 交付決定助成金額	294,000	円
4 助成事業に要した経費の額	417,846	円
5 助成金要望額	294,000	円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	「超前向き人生、鮫島純子講演会」は定員200名定員の所、希望者がすぐ満員になり大盛況でした。又、危惧した分科会にも多くの参加者があり、活発な意見が飛び交いました。この講演会をきっかけに、自分自身の生き方を見直す機会を得、男女共同参画社会を目指す意識を向上できたと思う。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	講演後のアンケート調査にも全員協力して下さいました。鮫島様の講演に関しては、感動、素晴らしかった、と沢山嬉しいことばが寄せられています。又、分科会においては、いろんな方の意見が聞けて勉強になった。これからの生き方に大変参考になった、など意欲的な意見が多かったです。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	講演会参加者、190名、ITC-J会員、講師、来賓、スタッフ等20名、総勢210名。コロナ対策でホール定員500名のところ半分定員見込みだったので、ちょうど満席状態でした。講演会の内容にも満足頂き、分科会にも46名が参加し、活発な意見交換をしました。ITC-Jの広報活動を一翼を担っていた理由ですが、早速例会がスタートしました。
7 成果の自己評価	* 詳細は別紙にて報告致します。	
	厳しいコロナ禍におきまして、無事にこの事業を終了できたことを、本当に感謝でいっぱいです。講演会に来て頂いた皆様、男女共同参画社会をめざす意識を向上させる良いきっかけとなった、と思っています。分科会の報告を市政に反映させていきたいと思っております。	

(別紙様式1)

団体名 木と瑠璃の会

事業実績報告書 ( 3 年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	子どもの未来を想う一つのアクションプロジェクト	
3 交付決定助成金額	100,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	100,750 円	
5 助成金要望額	75,000 円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	① ホームページを作成できた。 <a href="https://quiltore.com">https://quiltore.com</a> ② 廃材から作品=物品を販売できた。 ③ 子ども向けのワークショップを開催できた。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	企業の協賛のおかげで、木のコンポストBOXやアクセサリーなどを作ることになった。実際に販売することになった。ワークショップでも、子どもたちと遊ぶ"ながら"地球環境について学んだ。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	① 廃材グッズ・木のコンポストBOX 51個 販売実績・アクセサリー 1個 ・木の植木鉢 21個 ② 子ども向けワークショップ 8名参加
7 成果の自己評価	市民活動支援センターやニオビの祭りなどではグッズを販売することになった。ホームページを通じて廃材が欲しいという方は出てきた。宣伝の方法に問題がなかったと思う。今後は反省点を活かし、多くの場面に活用していきたい。	

(別紙様式1)

団体名	竹の力！活かし隊
-----	----------

事業実績報告書（令和3年度）

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	活かして！楽しく!!熊谷の竹 力 事業
3 交付決定助成金額	100,000円
4 助成事業に要した経費の額	117,573円
5 助成金要望額	88,000円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 放置されてきた竹林を古くからの知恵と工夫で楽しく活用する術を身に着けるきっかけづくりを目指し、竹林の有効性再発見と活用を図り、市民が身近な環境問題の解決に結びつける糸口となることを目的とした。 コロナ禍の中、最大限の事業を実施したが積極的集客が叶わず達成度としては集客数字的には123% (37/30) だったが、講座実施方法等でやや不満が残る。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 関係団体（熊谷青年会議所等）の協力もあり、コロナ禍のイベント実施ではあったが幼稚園児からシニア層まで参加者の「竹林整備への取り組み」姿勢に関心を寄せるきっかけ作りは成され、当会の目指した身近な環境問題の解決に結びつける糸口となる事業の成果は現れた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 ・竹伐り応援隊(竹林整備) 1回(市内奈良地区) 放置竹林の伐採、整備に市民ボランティアを募って作業を実施した。 ・竹炭焼こう隊(竹炭焼き) 2回 竹林伐採により出てくる竹材処理を、ドラム缶窯を設置し竹炭焼きにより行った。産み出される竹炭、竹酢液は竹炭製品として広く市民に配布し、竹の魅力を伝えた。 ・竹活かそう隊(竹細工、竹トンボ講座) 2回 親子を対象に竹林の効用講座を、埼玉県自然観察指導員を講師として実施、竹トンボ名人による竹細工と竹トンボ制作の実演講習会を実施した。

## 7 成果の自己評価

市内(奈良地区)の放置竹林の、竹伐り整備と絡め会の目的を実現すべく講座の開設、竹炭焼き等の活動を実践した。コロナ禍の三密回避で、PR活動や見込みの講座回数を行えず屋外での実施となったが、参加者からは高評価をいただき事業の成果は概ね達成出来た。今後の進展のための一歩が、着実に歩み始められた。